

413
301

特248

763

本

昭和十六年十二月

工學博士 大河内正敏氏述

國防經濟と科學

大阪商工会議所



0023149-000

特248-763

国防經濟と科學

大河内正敏・述

大阪商工会議所

昭和16

ADD

特 248
763

は し が き

国防國家の基礎は何か。謂ふところの国防經濟は如何にして確立さるべきであらうか。この問題をめぐつて各方面に科學の必要が切實に叫ばれてゐる。

本所はこうした要望に應へて經濟人たると同時に科學界の重鎮たる大河内正敏博士を去る九月二十四日當所に招請し、これに就ての蘊蓄の一端を聽く機會を得たのである。

當日の講演が一部人士にのみ限られたことを遺憾とし、こゝに小冊子として之れを再現し、国防經濟の科學的認識の昂揚をはかるべく一般に頒ちて御參考に供する次第である。

昭和十六年十二月

大阪商工會議所



國防經濟と科學

工學博士
子爵

大河内正敏氏述

統制經濟と科學との關係

只今は過分の御紹介に預りまして、誠に恐縮に存じます。私こそ今日、こちらへ出まして、お話をする機會を得ました事を、最も光榮とし、且つ、大いに喜んでゐる次第であります。どう云ふ事を申し上げたら、多少なりとも御参考になるかと考へたのでありますが、何分これと申す材料もございません、甚だ下らない事ばかりを申上げて靜聽を煩はすことは恐縮でございますが、若し、又御疑問或は御意見等ございましたならば、後で御遠慮なく御仰つて頂き度いと思ひます。

大體、先だつて、實は興業銀行で頼まれてまして戰時經濟とサイエンス——科學との關係に就きまして、お話を致しました事がありますので、今日はそれに稍々似てをりますが、さう云ふ様な事を申し上げてこの責を塞ぎ度いと考へるのであります。

今日の言葉で申しますならば国防経済——ドイツで云ふウエアウルトシャフト——と云ふものにどの位サイエンス——科学と云ふものが必要であるかと云ふことを申し述べ度いのであります。殊に普通の経済、所謂従来の自由主義経済機構下に於けるサイエンスの必要性と云ふ事は誰も認めて居るのであります。それよりも更に必要なのは今日の国防経済、或は、戦時経済——クリーグスウルトシャフト——と云ふ様なものにどの位必要であるか、殊に日本で必要を感じてゐる點で、最後に申し上げ度いと思ひますのは、今日この大事な戦時経済機構下に於て、政治にサイエンスが這入つてゐない。科学と云ふものが無い爲に、統制経済なんかでも目的に違つた方に走つてしまふ。今日の統制経済と云ふものは無用の競争を抑へ物資を豊かに供給すると云ふのが主旨であります。けれども、そこにたゞ残念ながら技術もなければ科学もない爲に統制経済が逆の方向に走つてしまつて、物資が出廻らないと云ふ事が起つて來るのであります。それは最後に申上げたいのであります。その結論を申上げます迄に大體のお話を致し度いと思ひます。

物動計畫の重要性

国防経済と戦時経済、かう稱えられてをりますけれども、結局兩方とも同じやうなものでありまして、簡単に解釋しますならば國際情勢がどうしても永久の平和——永久と申しましては餘り長過ぎますが、十年、二十年の平和は續かないと云ふ様な事が考へられます時に於て計畫します経済と云ふものが国防経済であると思ふ。それが國際間の平

和が破れまして始めて今度はこれが戦時経済に移つて行くのである。若しくは平和が破れなくても到底もう二、三年しかこの平和が保たんと云ふ目星が付いた時に始めてこれが戦時経済に變つて色々な準備をするのであると思ひます。この戦時経済或は国防経済と云ふ様なものの第一に目指した處は何であるかと云ふと、それは計畫経済によつて自給經濟を確立しやうと云ふ事でありませう。戦争が開始され、何年その戦争が續きましても、軍需品の生産、及び、國民生活必需品の生産と云ふものが落ちてはいけません。それを自分の處で自給をして行かう、或は今日の言葉で申せば生存圏内、共榮圏内で自給をして行くと云ふ事がこの經濟の眼目でなければならぬと思ふのであります。それは一體どの位物資が要るだらうか、戦争が始つた場合にどんな物資がどの位消費されるだらうと云ふ事を先づ物動計畫から調べてかゝらなければ、生産の豫想がつかないといふことになるのであります。

ところがこの物動計畫と云ふものが非常に難かしいのであります。到底どの國でもこれだけは非常な準備をもつてしても完全なものとは出來ないと思ふのであります。今日の戦争と云ふものは到底我々の豫想し得ざる消費がこゝに起つて來るのであります。

數年前——二、三年前までは日本では米が有り餘るので米の生産過剰についてどうすればこの米を有利に處分をするか、即ち米を原料として使はなければ出來ない、何か化學工業はないだらうかと云ふので、農林省から特に理化學研究所に研究費が年々下付になつたのであります。僅か一年について三千圓位でありまして、高は少なうございますけれども、兎も角どうすれば過剰米を有利に消費する事が出来るか、酒を作つただけでは足りないものでありますから、何かいゝ化學工業を考へると云ふのであります。そこで私の方ではその研究を一生懸命になつてやつた處が今日

は全く反対になりました。大正八年には御承知の通り米が足らなくて、或は米の値段が高くなつた爲に米騒動が起つた。それでこれでは大變であるから、どうかして米の消費を少くしようと云ふのでやはり理化學研究所で研究をしたのが米を使はずに出来る酒でござびます。今日理研酒と云はれてをるものであります。これは全く大正八年の米騒動の結果を見て鈴木梅太郎博士が米を使はない酒を作らうぢやないか、世界中を廻つて見ても國民の主食物を潰してそして國民飲料——日本酒が果して國民飲料と云へるかどうかは別問題として、大體國民飲料(ナショナル・ドリンク)でありませう。國民の主食物を潰して作つてをると云ふ國は日本だけでありまして何處にも他にはない。ドイツのビールにしても無論大麥を原料とするし、イギリスのウイスキーにしてもさうであります。或はフランスのナショナルドリンク、葡萄酒にしても葡萄を原料としてをりますし、支那人の酒も同様でございます。南洋の土人にしまして、主食物を潰して國民飲料をつくつてをる國はないのであります。米をつぶさずに日本酒を造らうと云ふ研究を始めたのが大正八年からのことでもあります。その後御承知のやうに朝鮮、臺灣の産米計畫が進みドン／＼日本に米が出来るやうになつたものですからこれでは日本の農民は立ちゆかない、何とか米を處分する工夫はないかといふことになつた。従つて理研酒なんかは非常に國家の方針に反したものであるといふので、甚だ出来榮えがしなかつたのであります。今日になると又それが必要となるのみならず、今日では米の増産計畫を何故やめたのだといふ議論迄出てをる。その位米が足りない。これは色々の原因もございませう、勞働力の不足といふこともございませう、動員のために色々の消費が殖えたといふこともありませう、色々の原因がありますが、兎も角戦争が始まるといふと我々の豫想しなかつたやうな物資が不足して来るのであります。後でもう少し詳しく申上げたいと思ひますが、アメリカのや

うに何でも物は十分あり餘ると考へてをつた國迄が非常な不足を來して、世界第一の製鐵國として、一年間に八千萬トンの鋼をつくつてをる國が鋼が足りないといふて米國が參戦しないうちから足らなくなつてゐるといふ位で、物資が不足して来るのであります、それを國防計畫として所謂物動計畫を立て、ゆくのですから、これが難しいのは當り前であります。

兵器の進歩と砲彈の使用量

一例を昔の戦争と現代の戦争に於ける大砲の彈丸——砲彈の消費數だけで比較してみると、今日のやうに兵器が機械化して精銳な兵器になればなるほど砲彈の數を餘計使つてしまうのであります。第一次歐洲戦争迄に大砲の彈丸を餘計撃つたレコードが日露戦争中の明治三十七年七月二十四日の戦闘であります。東部西比利亞聯隊の一野砲ロシヤの大砲であります。一日に五百二十二發撃つた。これがレコードであります。無論このレコードはこの前の歐洲戦争で破られました。これはこれがレコードでありました。その前のレコードは何であるか、もう一つ前のレコードは一八七〇年の普佛戦争であります。明治三年でございますが、その時の八月十六日の戦であります。プロシヤの大砲が一日に二十六發撃つた、これがレコードだつたのですが、三十年ばかり後の日露戦争にはそのレコードが破られて五百二十二發といふレコードが出来たのであります。ところがそれから十年経つか経たないこの前の歐洲戦争には、これは日露戦争の時分のレコードとは殆ど比較にも何にもならないのですが、大正五年にイギリスがどうしても

この部分のドイツ軍を或る程度迄退却させなければバリの危いといふことを考へまして、非常な準備をしたのがソンの戦でございます。その時に用意した砲彈の数が三千万發と言はれてをります。三千万發といふと日産十萬發つくる工場が一年かゝつてやつと出来る數であります。金高で申せば先づ日本の金に直して一發どんなに安くみても三十圓から五十圓でありますから、假りに四十圓としますれば一日に四百萬圓づゝ大砲の彈丸をつくる工場が一年働いてやつと出来るか出来ないかといふ砲彈がソンの役だけで用意された。非常な極端な例だと思ひますが、かういふ風に誰も豫想出来ない量でありました。當時ドイツの一日の大砲の彈丸の生産能力といふものは、これはドイツが負けたあの第一次大戦の時に於けるものであります。一日に八十萬發といはれてをります。非常に大きな生産力でありませ、これに對して英佛は、兩國合して先づヤツとその位——七十萬發位しか出来てをらなかつたのであります。それでゐてドイツは彼の惨めな負け方をして非常な屈辱條件の下に講和をしなければならなかつたといふことは何故かといへば、國民生活必需品が足りなかつた、國民が飢えたのであります。饑餓といふことに對しては到底戦争を繼續することが出来ない、どんなに武力戦で第一線が勝つてをつても、饑餓が迫つて來たのではもう持ちこたへられないといふのであの負け方をしたわけであります。

國防資源の偏在と科學研究の勃興

それでヨーロッパの各國、或は世界各國と申してもよろしい、各國は自給經濟でゆかなければどうしても今後の國

防といふものは完全なものにならない。所謂高度國防國家を建設することは自給經濟によるより外仕様がなといふので、戦後にイギリスも關稅引上をやる、どうしても産業をば自國內に築かなければならないといふことになつたのであります。

さういふことになりますといふと、これは實に容易ならぬ問題であります。といふのが、世界の資源の分布といふことは非常にこれは不公平に偏在してをるものであります。國防資源として例へば缺くことの出来ないニッケルなどの點になりまして大體に於てカナダが獨占してをるのであります。世界の九〇%以上はカナダの生産であります。昔はフランス領のニューカレドニアがニッケルを獨占してゐた。それがカナダに奪はれたのであります。今では世界の需要の五・六パーセント位しかニューカレドニアでは生産してをりませぬ。その他スエーデン、ロシア等に極く僅か宛は生産してをります。さういふ風に國防資源が非常に偏在してをります結果、總てを自給しようといふと、どうしてもこゝに産業の方からいふと、無理をして工業を起さなければならぬ。採算の點に於ては非常な困難であるけれども、否でも應でもつくらなければならぬといふことになるのであります。

例へば日本でありますとニッケルの鑛石は決して日本にないのではない、ニッケルの鑛石は日本にありますけれども、たゞその品位が非常に悪くて、とてもカナダやニューカレドニアに對し採算の點で競争が出来ないといふために自給が出来ずをりますのを、無理に生産を起さなければならぬのでありますから、或は工業に對しては國がその産業を起し、國營にするといふ仕方ではいかんと思ひます。例へばドイツが今度の戦争が始まります前にどうしても鐵が必要だ、それにはドイツ國內に貧鑛が澤山ございますから、貧鑛をもつて大製鐵所を興さなければならぬ

いといふので、ザルツギッターにヘルマン・ゲーリング大製鐵所といふのが今日出來てをりますが、これは民間の者は大製鐵業をやれといふても、誰一人到底算盤がとれないからといつて應ずるものがなかつた。國防計畫に官民擧つて熱心なドイツでも民間の事業としてはやり切れないといふので應じなかつたものだから、これを國營としてやつたのであります。勿論この前の第一次戦争の當時に於けるドイツは九十何パーセント迄國內の鑛石でもつて製鐵してをりました。それは普佛戦争でフランスからとりましたロートリンゲンがドイツの領地でございましたからあすこのミネット鑛山から鐵鑛石が十分生産された。鐵が自分の國の鑛石で生産出來たところがロートリンゲンをとられたから確か使用量の七五%の鑛石を輸入しなければドイツの製鐵業は成立たなかつたのであります。

この前のヨーロッパ戦争の時にイギリスの科學者がよくかういふことを云つてをりました。一體カイゼルはどうしてイギリスに對して宣戦布告の決心が出來たのだらう、軍需品の自給が出來なければどうしたつてドイツはイギリスに宣戦を布告することは出來ない。外國から輸入を仰ぐものがあつたのでは決して布告が出來ない。その輸入を仰ぐ一番大きなもの大事なものは何であるかといふに、それは南米のチリにありますが、南米チリからドイツに硝石を輸入して硝酸をつくつて火藥、爆藥を製造してをりました。世界の硝石供給はチリ以外に無く、だからイギリスの海軍に封鎖されてしまつたら、南米チリからドイツへ硝石を輸入することは絶対に出來ません。どうしても國內で自給しなければならぬといふので生れ出たのがあのハーバーの窒素固定の發明であります。ハーバー博士の努力によりまして空中窒素から火藥、爆藥が出來ます。空中窒素をアンモニヤにして、アンモニヤから又硝酸につくるのでして、結局、空中窒素から硝酸をばつくる。さうすると、チリから硝酸原料である硝石を一トンも輸入

しなくてもよいので、これが一九二二年に發明が完成し工業化しましたからもうこれでドイツはイギリス海軍の封鎖を受けても火藥、爆藥の製造に少しも困難をしないといふ見極めがついたからイギリスを敵としたのでありまして、それにも拘らずイギリスの外務省は自分の國の火藥製造に使ふアセトンといふものがどこから輸入されて來るか知らずにつた。ドン／＼開戦後なくなつて來るが、調べてみると今迄使つてをつたアセトンの全部はドイツから輸入してをつたことがわかつた。それで大騒ぎになつて、頭を絞つて研究され、色々なことをしてヤツと火藥製造が間にあひました。イギリスのその頃の役人が火藥製造に使ふ藥品がドイツから輸入されてをるといふことを知らなかつたといふので、かういふことがあつたのではないから今度から役人採用の試験には科學試験を入れるといふことが一部に起つたことがございます。

科學 目的 の 再 檢 討

斯くの如くこの前の戦争で既に國防物資の自給といふことをどうしてもやらなければ、今日で云ふ高度國防國家が建設されないといふことを彼等は沁み／＼と體驗してをりましたから、科學の研究といふことが今日の言葉で申せば國防國家の物資自給の研究に移つてをりました。今迄は産業を主體にして採算を主とする産業科學が主であつたのであります。今度は國防を主とした科學の研究を先きにする、値段は高くなつてもどうしても自給出來るやうにしよといふのでやつたのが、例へば合成ゴム人造ゴムであります。アセチレン瓦斯を原料としましてつくるとか、或は

その他のものでつくる、合成ゴムは御承知の通り色々な種類がございますが、ドイツではアセチレンからブタジコンを製造しそれを原料として合成ゴムとするからブナと命名されてをります。この人造ゴムの値段は昨年、一昨年頃迄は生ゴムの三倍でありました。併しどうしてもこれがなければゴムの供給といふものがない。自動車、飛行機のタイヤも出来ない。世界中で強國といはれる國でもつて生ゴムの自給の出来るといふ國は一つもありません。イギリスがあるぢやないかといはれますけれども、それはイギリスは自分の屬領から供給を受けてをつて、しかもその屬領は非常に離れた遠方の所であります。イギリスの共榮圏外になつてゐる。例へばマレー半島でありますとか、或は國際關係の都合のいゝ蘭印でありますとか、タイでありますとか、佛印でありますとかいふ所からは供給が出来ますけれども、日本を味方としない限りこれは十分に安心をしてをるわけにはゆかない。大東亞の共榮圏が確立すれば世界中そのゴムの供給が一番安全に得られるのは日本より外にないのであります。この位近いところに生ゴムの供給地を有してをる強國は世界中に日本より他にない。例へばソヴィエト・ロシアの如きはどんなことをしたつて日本を敵とした以上は生ゴムの供給は絶対に得られないのであります。だからゴムの代用品の研究が最も熱心であります。供給のないソヴィエトであるとか、ドイツであるとか、それからアメリカが皆生ゴム代用品の研究に懸命になつて居り又その工業化も進んで居ります。

食糧増産對策と人工榮養の研究

アメリカのことを申しましたが、ゴムは南米から天然ゴムが來さうであつてチツとも來ない。妙なことであります。が、どういふわけかゴムの原産地は南米のブラジルなのであります。ところがどうしてもブラジルでは十分にゴムの採取が出来ずに、却てそれを移し植えた南太平洋の方面で栽培したゴムの樹がドン／＼巧く成長し、最近の報告によりますと、特に佛印が非常に成績がいゝさうであります。蘭印よりも遙かにゴムの成績がいゝさうであります。養殖の部分が發達してしまつて、天然ゴムの方が衰へてしまつた。故にアメリカは南太平洋その他何處からかなりと生ゴムの供給を受けない限りは全く供給がないのであります。従つてアメリカも亦ゴムの代用品については非常に研究が盛んで、やはり相當のものが出来てをります。値段は高いのであります。併しこれをもつとウンと大量につくれるやうになれば必ず値段は下るといふことを頻りに謳つてをります。

かういふ風に自給經濟をやらうとしましても、或るものはもう不可能なものがございませう。資源によつては全然どうしても供給が出来ないものがございます。ニッケルのやうな品位の粗悪なものだと方々にある貧礦から算盤をば無視して生産を起せば出来ませんがそれは容易でない。錫、アンチモニー、タングステン等に到つては貧礦を蒐集しても足りない。又如何に算盤を無視してもさう澤山普段つくるといふことは困難でございますから、こゝに考へられる案といふものは豫め買溜め、貯藏しておくといふ案であります。各國その案をとつてをるのであります。併し泥繩式の考であつて、到底長期の戦争に耐へることは無論出来なわけであります。貯藏してをるのでありますから長く使へば無論なくなつて來る。ダン／＼無くなつて來るのは當然のことではありますが、先づその無くなる間に代用品を作り出さうと云ふ譯であります。先づ買溜めをやつてゐるドイツの如き、あの位科學が發達してをりますところもやは

り食糧品に對しては相當の買溜め貯蔵をやつてをるのであります。これは私が申上げる迄もなく皆様の御承知のことと思ひます。日本の艦詰がどの位ドイツへ行つてをりますか、嘗ては非常な勢でシベリヤ鐵道を通してでも行つてをつたのであります。今日は行けなくなつたのであります。併し一面にさういふものでなくて國民を饑餓に陥れまいといふ研究も相當盛んであります。その一つとしてビタミンの研究が盛んに起つて來たのはこの前の戦争の結果でございます。不思議なことにこれはアメリカが一番研究が盛んでございまして、ドイツは立ち遅れたのでございまして、それでも相當に合成を研究しました。ビタミンといふものゝ物質そのものゝ發明は却てアメリカや日本の方が先でございましたが、それより、今度はそのものを合成する、つくり上げるといふ方の研究、發明はドイツの方が進んで來たのであります。それは僅かの分量でもつて榮養が攝れてそれさへ服ましておけば榮養不良に陥つてそのために起る病氣を豫防することが出来る。併し腹の減つたものはそれぢや豫防が出来ませんから腹の減つたのは何か他の榮養價値がそんなにないものでも構はない、安いもの——代用食のやうな——代用食といふと語弊がございますが、兎に角榮養價値のないものでもたゞ澤山食べさせれば空腹に對する飢餓は征服出来る。そして十分に榮養のある必要な榮養分の僅かな分量を同時に食べさせればそれで空腹の饑餓も防げれば、身體の本當の榮養に對する榮養の饑餓も防げるといふやうなことが今盛んに行はれてをるのであります。この食物の榮養が不良になつたために疾病その他の原因で人が死ぬといふことは、これは我々一寸想像も及ばない多數の死亡數であります。現に數日前の新聞にもございましたが、フランスが既に食糧の缺乏、燃料の缺乏等によつて國民の何百萬といふものが饑餓に襲はれてをる。ベルギーの如きは殊に子供が榮養不良に襲はれて非常な悲惨な状態にあるといふことが云はれてをるのであります。

す。この前の第一次ヨーロッパ戦争に於て戦傷によつて殺されました人の數が、スイツツルの學者でありましたかの統計によりますと、大體千二百何十萬人であります。それと今度は交戦國內に於て戦傷によらざる所謂、非戦闘員の死亡が、これは毎年およそどの位死亡したといふことがわかつてをるのでありますが、それ以上に餘計死んだといふ數を調べて見ると、やはり約千二百萬人餘、合計約二千五百萬人といふものが戦争のために死んでをるのであります。今日位醫學が進歩してもなほそれでありまして、もつと古い戦争に於きますと、戦傷で死んだ人間の何倍といふ人が病氣とか、饑餓で死んでをるのであります。かういふ方面にもつと科學が進出してゆきまして、榮養の研究をするのも第一であります。どうすれば現在の地面から早い話がもつと餘計米が採算は別としてもつと餘計にとれるやうにするにはどうすればよいかを眞剣に研究して、生産費はどの位になるか、どういふ風にしてどれだけ此種の肥料をやればどれだけ生産出来るかといふことは、これは緊急に研究をやる必要があるのであります。米の不足の問題の如きはかういふことが出来さへすれば一舉にして解決される問題でございます。

アメリカの軍需金屬類の生産能力

國民生活必需品の問題は、詳しく調べますと色々不足なものがございまして、それに対する對策はどうするかといふ問題も色々あるのであります。直接戦争に使はれる所謂國防物資殊に金屬類といふやうなものについての不足を考へてみますと、先程申し上げましたやうに驚くべき事實であります。今日世界第一の製鐵國アメリカ、この世界第一

といふことは實は飛び離れた第一でありまして、第二はドイツですが、その生産額は二千五、六百萬トンでございます。しようか、或は今日せいふく三千萬トンになつたかと思ひますが、アメリカはそれと桁はづれに飛び離れてをる。先づ七千萬トン、八千萬トンとも申されてをるのであります。そのアメリカで鐵が足りない。報道によりますといふと、一昨昭和十四年のアメリカの製鐵能力が約六千七百萬トンと言はれてをるのであります。そして十二年は五千三百三十萬トン生産をしてをります。ところが十三年は不景氣でございましたから二千八百八十萬トンしかつてをらない、非常な減り方でございます。昭和十六年の生産豫定が、これだけは出來ないと思ひますが、兎に角今日のところ八千七百六十萬トンであります。それでゐて物動計畫によりますと百四十萬トンまだ不足してゐるといふことであります。更に明年でございまして、ダン／＼生産能力が擴充してゆきますから、これは尤も人によつて算定の量は異ふのであります。恐らくアメリカの製鐵能力は九千七百十萬トンになるだらうと云はれてをります。併しそれでもまだ不足額は六百五十萬トンであります。銅の如きも、アメリカは銅の産地で大輸出國でございましたが、そのアメリカが今日は大輸入國になつてゐる。日本へ銅が來ないなどいつて我々不平を云つてをりますが、アメリカ自體が大不足を齎してをるのであります。アメリカの銅の生産額が昭和十二年で八十二萬三千トンであります。そしてその中三十萬七千トンを輸出してをるのであります。世界第一の輸出國であります。無論この銅の鑛石の一部は南米から輸入したのは云ふ迄もありません、自分の國內から出た鑛石ばかりで生産したのではない。併し南米はアメリカの共榮圈と考へますから、自由に供給が受けられるのであります。ところが今日ではどうかといふと、もはやあのイギリスの軍需品を助ける以外には殆ど輸出は出來ないのであります。南米から物資を得るために色々の電氣機械とか電線

を輸出しなければなりません。これはアメリカが南米から物資を得るために必要なものであります。さういふものをやむを得ず輸出するのであります。他へは一切輸出することが出來なく、約四十萬トンほどの銅を南米のチリから輸入しなければならぬといふ状態であるといはれてをります。

アルミニウムはどうであるか、これはアメリカは實はドイツと兄たり難く弟たり難きアルミニウムの生産國であります。世界第一になつたり第二になつたり、最近はドイツが第一になつてしまつた、アメリカが第二であります。そのアルミニウムがやはり今年はもう既に不足をしてしまひまして、アルミニウム屑を集めてどうかしてこれを補はなければならぬ。併しそれでも來年は非常に足りなくなつて、その結果どうなるかといふと、來年生産をすべき豫定になつてをりました飛行機の生産を二割五分減産しなければならぬ。減産しなければ物動計畫のアルミニウムが賄へないといふことが報ぜられてをるのであります。この他に自分のところももう初めから足りない例へば生ゴムのやうなものがあります。或はタングステンでありますとか、滿俺でありますとか、それから錫でありますとか、水銀でありますとか、その他色々なものがまだアメリカには足りないであります。尤もタングステンの如きは自分の國內で相當掘れば出て來るのであります。タングステン鑛石がないのではない、貧鑛ならあるのであります。併し貧鑛でありますから、支那から輸入するのが一番安く入つて來る。支那からタングステンを輸入した場合は鑛石の値段であります。約アメリカの五分の一で入つて來る。でありますから今迄はダン／＼アメリカは支那から輸入をしてをつたために自國內のタングステン鑛は未開發に残されたのであります。日本と支那の戦争によりまして殊にビルマルトが絶たれてしまつて、アメリカへタングステンが行かなくなつてしまつた。これが大痛手でありまして、援蔭ル

トといはれてゐるけれども、實はアメリカへ必要物資を、タングステンばかりでございませぬ、その他の必要物資を送るあれは輸送路であつたのであすこをとめられるといふとそれが利かなくなるのであります。

オーソリテイー主義と國策貯藏會社の設立

まあさういつた工合で、錫は東洋から来てをつたのを南米のポリヴィヤから持つて来て補ふとか、色々な對策を今立てゝをるのであります。アメリカで一寸感心したことは滿俺に對しては誰が國內のオーソリテイカ調べて、滿俺のかういふ貧乏からどうすれば製煉をやるか、或はどこからかういふ鑛石を輸入して用ひるかといふことは、滿俺のオーソリテイを主任にしまして、對策を立てさせる。そしてそれに買集めをやらせる、或はそれに生産の計畫を立てさせてゐることでもあります。錫には錫のオーソリテイ水銀には水銀の權威者を動員して對策を講ぜさせてゐます。錫の如きポリヴィヤから持つて来たのであります。精製されたものを持つて来ただけではとても足りませんから、鑛石を輸入して来て、この場所であういふ方法でやれば一番よろしいといふことを今度は錫のオーソリテイが動員されて主任になつてやつてをる、そしてそれが計畫をして、工場を建て、その工場は民間の錫の製煉工場に委任經營をさせるのであります。幾らアメリカでも政府に錫の技術者のえらいのばかりをるといふわけにはまゐりません。どうしても民間の業者で無論えらい人が大勢をるから其人達に委かすのであります。不足金屬の鑛石をこの場所へ持つて来て精鍊をしてこの會社に委任經營をさせれば一番よろしいといふことを政府はそれだけの指導力を持つ

ために専門家を動員するのであります。

併し何をやらせるのにも相當の金が要るのでありますから、そのためにはあの復興金融會社の仔會社として昨年の七月一日にメタルズ・レザーヴ・カンパニー——金屬貯藏會社といふものをこしらへてこゝで滿俺、タングステン、錫等どれに對してもアメリカが足りないものをその會社が買ひ集めるのみならず生産もやらず。貯藏會社でありますけれども、同時にこれは一種の生産會社のやうなものであります。で、日本のやうでありますと國策貯藏會社がありませんから、各工場が皆要りさうな資材を買ひ集めてもつてゐなければならぬ。従つて運轉資金の如きは平素の何倍も投下しなければ必要の材料が集まらない。その材料を使ふ註文が例へば軍部から来て、切符を貰つてその現物が入る迄には少くとも六ヶ月位はかゝるのです。段からチャンと持つてゐなければすぐ生産にかゝることが出来な、やむを得ずいりさうなものと思つたら皆買ひ集めてもたなければならぬ、各個別々にやるのであります。そこで物資の偏在が起り、しかも非常な澤山の運轉資金が必要となるのであります。そんなことはアメリカは實にやり方が巧い、戰爭をしない以前、去年の七月一日からやつてをります、この金屬貯藏會社は資本金五百萬弗であります。一億弗迄融資が受けられることになつてをります。その他生ゴムの貯藏會社といふものもありましてこれも七月一日に設立されました。これは生産をやることは出来ませんから買ひ集める一方であります。これもやはり資本金は五百萬弗で、一億四千萬弗迄融資が受けられることになつてをります。面白いことには、この會社はニューヨークのゴムの相場をドン／＼騰げてまあワザと騰げるのではありますまい、やむを得ず騰るのであります。——買ひ集めてをります、併し船がないから蘭印方面の生ゴムの値段といふものが騰らない、若し船が十分ありますならば、

蘭印の生ゴムがドン／＼行つて、蘭印のゴムの相場とニューヨークのゴムの相場とは大體に釣合がとれるのでありますが、それがとれないのであります。

物價政策と物動計畫の輕重

かういふ風に考へ來ますと、我々はどうしても物價政策といふものが物動計畫の支配下になければならない。物が出て來るといふことが一番國防上必要なものであります。ドイツの負けたのは國民生活必需品がなくなつたから負け、戦には勝つてをる。幾ら物動計畫をやつても値段が高くなつても、物が出て來なければ負けるのであります。負ける方がこわいか、インフレがこわいかといふ問題迄考へなければならぬ。必ずしもインフレは物が高くなつたばかりにインフレが起るとも考へられませんが、併しその高いのも程度があり、その高いのは國の力で抑へることが出来るのでありますから、無暗にわけもわからずに低物價を堅持してをるのでは、これは物が出て來るわけがないのであります。故に物價政策といふことは物動計畫の次に來たるべきもので、物動計畫の支配するところではなければならぬが、これはイギリス邊りがそれをやつてゐる。イギリスは御承知の通り一昨年であり、恰度戦争の始まる三、四ヶ月前、それ迄に非常な要望の聲が盛んでありますので軍需省が出來ましたこの軍需省が今日物價政策迄握つてをるのであります。軍需省といふものは總ての工業動員をやつて、ドンドン生産を營む、生産を指導する役所であり、それが物價政策迄握つてをるのであります。その結果一昨年の十一月一日にイギリスは鋼の値段を上げま

した。その當時上げましたのが、これは鋼材によつて色々違ひますが、一つの例を挙げますと、最も普通なもので鋼材一トン當り百六十七志六片に上げたのであります。ところが更にそれを小刻みにドン／＼上げて來まして、昨年の十一月一日に四度目の公定價格を改訂しまして、一昨年の十一月一日に百六十七志六片であつた鋼材が一年後の昨年の十一月一日には二百四十五志迄引上げられてをります。その位に物動計畫といふものが、どれだけの物價にすれば物が出て來るか、これがなければ物が生産出來ないかどうかといふことを睨んでやつてゐる。日本のやうに物動計畫と物價政策とが別々ぢや駄目です。

屑鐵の値段なんか殊に細かくやつて全國一率ではありまやん。町によつて値段が異つてをる。日本のやうに何處も此處も公定價格が同じといふやうなことはしてをらないのであります。シエフィールド市では屑鐵一トン六十七志九片でありますと、マンチエスターが幾らといふ風に決めて、高いところで北西海岸地方は七十三志六片であります。僅かに五、六志位宛の差で、十志とは違ひませぬけれども、兎に角町々で細かく運搬費を計算し、集める値段を計算して公平に公定價格を決める能力が政府にあるから、決して鐵鋼減産にもならず又不公平にもならないで思ひ切つて公定價格が出來るのであります。勿論イギリスだつてインフレになるのを恐れるのが決して日本より少いのではない。或は日本以上にインフレを恐れてをるのであります。それでゐて一年に鐵の値段を四度も上げるといふやうなことをやつてゐるのであります。

かういふ風に考へてみますと、政府はシツカリした指導力をもたなければならぬ。それは民間人を動員しなければいけないと思ひます。とてもそれだけ役人の数があるわけではないのでありまして、どうしてもそれぞれの産業に通じた役人をつくるには民間人に協力を求めなければなりません。その點から考へますと、アメリカでは御承知のやうに生産に對する生産指導の委員会をつくつてジエネラルモータースの社長がその委員長になつたのであります。ところがそれをやつてみて、委員会では駄目だ、政府の諮問機關としてやつてゐるだけでは駄目だ、更に行政權をもたなければならぬといふことがわかつて、委員会をやめてオフィスに變つたのであります。即ち初めの名前はナショナル・テイフエンス・アドバイザー・コミッションといふのでありましたが、一種の委員会のやうなことでは駄目だといふので、國防生産及管理局、オフィス、フォア、プロダクション、アンド、マネージメント、オフ、デフェンス、略してO・P・M・Dと改稱して、やはりゼネラルモータースの社長クヌードゼンガ大將ではあります、その社長も年俸一ドルといふ俸給でアメリカの役人となつて、ここで働いてをるのであります。何れにしても民間の者を動員しなければならぬといふことになつてゐるのであります。

イギリスもこれをやつてをります。中小工場を如何に動員して國家の必要とするものをつくらせるかといふことに特に考慮を拂つてゐる。(ドイツもさうであります)一番早くやりましたのは飛行機の製造でございます。飛行機

の製造が一千九百三十六、七年頃から御承知の通りドイツに負けてしまつてイギリスは敵はなくなつた。生産數量が上らない。これは現在の飛行機工場だけにまかしておくから出来ないのだ。それをもつと擴張させること、それもよろしいか、併し現在既に出來てゐる中小工場で他のものをつくつてゐるのを、飛行機の部分品に轉換させることは出來ないが、これは必ず出來るに違ひないが其工場が承知しなくても政府の命令で製造させる。日本のやうに當業者から陳情をやつて造らしてもらうのではない。政府が認めて、この工場は飛行機のどの部分をつくらせるのに一番適當してゐるといへば、今迄そんなものは見たこともないといふ工場にでも政府が命令してつくらせる。それがために一、二その工場の社長、それは社會的には地位の高い大工場の社長が反對を唱へてゴテ／＼したといふことも聞いてをりますが、もう政府の最高機關が認めて、どの工場とどの工場を動員してゆけば飛行機の生産が出來るといふことはチャンと睨んでしまつてゐる。そこでその工場がどんな大きな工場でも、或はどんな小さな工場でも、それが今迄飛行機にまるで關係のないものを生産してつても、國の命令、政府の命令で、この工場はこの部分品、即ち例へばナットならナット、ボルトならボルトが出來るとみれば、それをつくらせる。たゞ徒らに轉業を強ゐるとか、或は大陸へ移轉しろといふやうなそんな雲を握むやうなことは一つも申してをりませぬ。出來るだけ國內の工業力を如何に利用するかといふことを具體的合理的に考へてゐる。

ドイツが電撃作戦をやります前に何をやつたかといふと、自動車工場の所謂コントロール統制強化であります。一つの工場で大量生産をやるには、種類を一つにして、一工場一品主義、これでゆく位多量生産が出来ることはないのであります。それをチャンと知つてをります。自動車といふものの種類は何十種、何百種とございませう。兵士を乗せて飛行機の後からくつついてゆく自動車もございませうし、大砲をひつばる自動車もございませう。或は斥候が馬の代りに乗つてゆく自動車もございませう。その大小各種の自動車を一つの工場に全部つくらせてゐたのでは能率が上らないから、クルツプのやうなあんな大工場でもそこではやつと二種つくらせてゐるが、それ以上は禁止してしまつてゐるのであります。お前の工場ではこの型の自動車をつくれ、この自動車以外は作つてはならんといふ風に、その工場に一番適當した自動車をこしらへさせる、その代り他の工場にはその自動車をつくらせることは一切禁止してしまふ。その工場だけにつくらせる。日本邊りでかういふことをやりましたら、色々不平その他が起るでせうが、國が命令してしまふ。それには工業の動員にしても、生産方法の指導にしても、國が指導力をもたなければどうしても駄目なんです。

それ迄には所謂技術とか、科學とかいふものが政治に喰ひ込んでゆかなければならない。又政治の方はこの科學とか技術とかいふものを巧く抱き込んで入れてしまはなければならぬ。併しさういつても必ずしもその學者が必要ぢやない。科學を採り入れるといつたところが、科學者を政府が動員してやるだけではないか。さういふことによくわかる人が政治の局に當らなければいけない。科學者でなくとも、或は科學の研究などにはまるで縁の遠い人でも、よくそれがわかる人が政治に携つていつて、前述のやうに民間からドン／＼動員をして、指導力を政府がもつことが

必要であります。お前の工場でこのものは今必要がないからこの生産をやめて、自動車のこの部分品をつくれといつて命令する。そしてその出来上つたものは一つの親工場に持つていつて組立をやらせる。例へば三十種類の自動車があれは三十の親工場があるわけでありませう。それに附屬した小さな工場といふものがどの位ありますか、それは親工場が認めて下請工場にするのではなく、政府がその工場に否でも應でもこの工場の下請をやれ、下請ぢやない、この工場のこの部分をつくれといつて命令する。そして組立はこれはどうしても永年自動車を製造した熟練工でなければ出来ないが、部分品は熟練工でなくとも出来る。女、子供でも出来るのでありますから、従つて今迄それらの生産をしてをらぬ工場では部分品をつくる。そして難しい組立は専門工場でやる。この工場はどの種類の自動車の組立をしろといふことを政府が決める。どこ／＼の工場から持つて来た部分品をこゝで組立てるとさういふこと迄に假りにゆかないとしても、どうしても生産といふことと、或は物動計畫といふことと、物價といふこととは離るべからざるものである。しかも物價政策といふものは物動計畫に追隨してゆかなければならぬ。或は物價政策といふものは物動計畫といふものが指し示すところによつて進められなければいけないと思ふ。残念ながらまだ日本ではさういふ風にまゐりませぬ。なほその他申上げたいこともございませうが、時間がありませんので。――

(終)



昭和十六年十二月十日印刷
昭和十六年十二月十五日發行

【非賣品】

大阪北區堂島濱通二丁目
大阪商工會議所內

發行人 兒 林 喜 一

印刷人 小 山 壽 夫

印刷所 大阪北區芝田町六十五番地
小山成交社印刷所

發行所 大阪北區堂島濱通二丁目十二番地
大阪商工會議所

電話 福島自一五一至一五七
振替口座大阪八六六〇

